

住み慣れた地域での生活を考えるワークショップの開催報告

- 1 日 時 令和4年9月3日（土）13時から15時
 2 場 所 八戸市立東公民館 ホール
 3 出席者 18人（八戸学院大学 学生6人、地域関係者12人（民生委員、町内会））

4 開催概要

（1）話題提供

「八戸市の高齢者に関する情報提供」

八戸市 福祉部 高齢福祉課 主査 山口 誠

「地域包括ケアシステムの解説」

八戸学院大学 健康医療学部 人間健康学科 講師 大木 えりか 氏

（2）アイスブレイク

ここからの進行は、八戸学院大学 健康医療学部 人間健康学科 助教 米田 政葉 氏

（3）グループワーク

テーマ「東地区における高齢者の見守り体制について考える」

- ①東地区における高齢者の見守り体制の現状
- ②課題の整理
- ③課題の改善策

（4）各グループから意見交換

意見交換の概要は次のとおり。

東地区における高齢者の見守り体制の現状
<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者宅を訪問して把握をしている。 ○高齢者ほっとサロンを通じて見守りを行っている。 ○敬老会における記念品の配付や独居の高齢者へ社協からの贈り物を届けることで安否確認をしている。 ○日頃の生活の中での声かけにより、気になる高齢者を見守っている。 ○見守りネットワークを通じて気になる高齢者の情報共有をしている。 ○タクシー会社が駆けつけてくれる緊急通報装置について家族に情報提供している。 ○コープやヤクルト宅配からの情報などで高齢者の見守りをする方法もあることを家族に情報提供している。 ○自分の町内では、見守り者は民生委員が中心である。 ○民生委員の高齢化、成り手不足である。 ○頻りに訪問したが高齢者から迷惑がられる。 ○訪問を拒否され嫌がられる。 ○民生委員や町内会に迷惑をかけたくない思いが、見守りが必要な高齢者から感じられる。 ○コロナにより老人クラブやほっとサロン活動が再開できていない。 ○定例会などで民生委員同士の情報共有はできている。 ○移動スーパーがやってきたことにより高齢者の買い物や見守りに助かっている。

課題の整理
<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍で様々なイベントが中止になってしまった。おしゃべりがしたいというニーズがある。 ○個人情報の扱いがネックになっている。 ○見守る町内が広く、見守る人が少ない。 ○引きこもりの高齢者を外に出すことが難しく、引きこもりによる健康面が心配。 ○訪問した時に、家族関係を聞くことに限界を感じる。 ○民生委員が相談対応する時に、どこまで踏み込んでいいのか分からない。 ○民生委員や町内会の活動が分かりにくい。
課題の改善策
<ul style="list-style-type: none"> ○見守る人の数を増やす。 ○高齢者同士でグループを作って見守りをする。 ○民生委員からの見守り報告を聞けるようにする。 ○季節の中で見守り週間を設定する。 ○町内班長が定期的に町内会を見守る。 ○コロナ前のように活動を再開させる。 ○民生委員の活動内容を広く知ってもらう。 ○アパートの管理人に高齢者支援について協力してもらう。 ○スマホに頼りすぎず、対面する機会を増やす。 ○若い人と高齢者の交流の機会を増やす。 ○地区で行われているイベントを回覧板や広報誌などを通じて宣伝する。 ○感染症対策を講じながら交流する場を設けたり、再開させる。 ○民生委員の活動について知る機会を設ける。 ○タクシーやコロナ禍で仕事が少なくなった民間企業を活用する。 ○住民情報世帯名簿を市役所から出してほしい。 ○個人情報について権限を得る。

5 今後の取組

- 高齢者見守りネットワークについて、東地区における高齢者の見守り体制の現状、課題の整理などについて関係者間で情報共有することができた。
- 高齢者見守りネットワークが新規に立ち上がりそうな町内があり、その町内に対して担当地区である高齢者支援センター福寿草が高齢者見守りネットワーク立ち上げに向けた協議を継続して行う。